まほろば会　2011年新年会　資料

（平成23年）

開催日　　2011年1月15日(土)
集合場所　京成電鉄　京成成田駅
参加人数　25名

1 成田山　新勝寺（なりたさんしんしょうじ）

真言宗智山派の寺であり、同派の大本山のひとつ。*1本尊は不動明王。不動明王信仰の寺院のひとつであり、寺名は一般には「成田不動」あるいは単に「成田山」と呼ばれることが多い。

*1 真言宗智山派・・・総本山は、智積院（京都市東山区）
成田山新勝寺の他、川崎大師(平間寺)・高尾山薬王院が大本山の格をもつ。

成田山には、全国に72箇寺の別院・分院・末寺・末教会・成田山教会がある。

●本山　成田山新勝寺

●別院　東京別院（成田山深川不動堂）・川越別院（成田山本行院）・札幌別院（成田山新栄寺）
横浜別院（成田山延命院）　・函館別院（成田山函館寺）・大阪別院（成田山明王院）
名古屋別院（成田山大聖寺）　・福井別院（成田山九頭龍寺）

●分院　12箇寺　●末寺　39箇寺　●末教会　7箇寺　●成田山教会　5箇寺

成田山新勝寺は平安時代中期に起きた平将門の乱の際に朱雀天皇が平将門の乱平定のため、939年（天慶2年）、寛朝大僧正を東国へ遣わしたことに起源を持つ。寛朝は京の高雄山（神護寺）護摩堂の空海作の不動明王像を奉じて東国へ下り、翌940年（天慶3年）、海路にて上総国尾垂浜(山武郡横芝光町尾垂ヶ浜)に上陸。平将門の乱平定祈願のため、下総国公津ヶ原(現在の成田ニュータウン辺り)で不動護摩の儀式を行った。この時、将門軍を平貞盛、藤原秀郷が包囲しており、満願の日の天慶3年(940年)2月14日に将門は討たれた。戦勝は明王の神力によるものと、天皇が国司に命じお堂を建立させた。「また新たに勝つ」という語句に因み新勝寺と名づけられ、東国鎮護の寺院とした。
新勝寺はこの天慶3年を開山の年としている。永禄年間(1558～1570)に成田村一七軒党代表の名主が不動明王を背負って現在の場所に遷座し伽藍を建立した。その場所は、現在の成田市並木町にある「不動塚」周辺と伝えられ、成田山発祥の地と言われている。その後、新勝寺は戦国期の混乱の中で荒廃し、江戸時代までは寂れ寺となっていた。

江戸時代には、1703年（元禄16年）、深川永代寺（富岡八幡宮の別当寺）で行われたを初めとし、計12回の「出開帳」が行われた記録がある。また、歌舞伎役者の市川團十郎が成田不動に帰依して「成田屋」の屋号を名乗り、不動明王が登場する芝居を打ったことなどもあいまって、成田不動は庶民の信仰を集め、成田参詣が盛んとなる。

2 川瀬屋

天保元年(1830年)創業の老舗のお蕎麦屋さんです。
佐倉市新町129　　TEL　043-484-0136

カムロちゃん

3　国立歴史民族博物館について

国立歴史民俗博物館は、大学における学術研究の発展及び資料の公開等一般公衆に対する教育活動の推進に資するための大学共同利用機関として、昭和56年4月14日に設置されたものであり、我が国の歴史資料、考古資料及び民俗資料の収集、保管及び公衆への供覧並びに歴史学、考古学及び民俗学に関する調査研究を行うことを目的としています。
「歴博」の愛称で親しまれている国立歴史民俗博物館は、昭和58年3月に開館しました。本館は日本の歴史と文化について総合的に研究・展示する歴史民俗博物館で、千葉県佐倉市 にある佐倉城址の一角、約13万平方メートルの敷地に延べ床面積約3万5千平方メートルの壮大な規模を有する歴史の殿堂です。原始・古代から近代に至るまでの歴史と日本人の民俗世界をテーマに、実物資料に加えて精密な複製品や学問的に裏付けられた復元模型などを積極的に取り入れ日本の歴史と文化についてだれもが容易に理解を深められるよう展示されています。

参考資料

1 新年初詣者数ランキング(1970・1973～2010年統計による)

	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2010年の初詣客数
1	鶴岡八幡宮	川崎大師	明治神宮	明治神宮	明治神宮	明治神宮	明治神宮	明治神宮	明治神宮	320万人
2	熱田神宮	鶴岡八幡宮	住吉大社	川崎大師	川崎大師	川崎大師	成田山新勝寺	成田山新勝寺	成田山新勝寺	298万人
3	明治神宮	住吉大社	伏見稲荷	成田山新勝寺	成田山新勝寺	成田山新勝寺	川崎大師	川崎大師	川崎大師	296万人
4	伏見稲荷	伏見稲荷	川崎大師	住吉大社	住吉大社	住吉大社	住吉大社	伏見稲荷	伏見稲荷	270万人
5	八坂神社	明治神宮	成田山新勝寺	伏見稲荷	伏見稲荷	伏見稲荷	伏見稲荷	熱田神宮	住吉大社	260万人
6	住吉大社	成田山新勝寺	熱田神宮	熱田神宮	熱田神宮	熱田神宮	熱田神宮	住吉大社	浅草寺	254万人
7	豊川稲荷	熱田神宮	鶴岡八幡宮	鶴岡八幡宮	大宰府天満宮	大宰府天満宮	大宰府天満宮	浅草寺	鶴岡八幡宮	250万人
8	伊勢神宮	春日大社	大宰府天満宮	大宰府天満宮	鶴岡八幡宮	鶴岡八幡宮	鶴岡八幡宮	鶴岡八幡宮	熱田神宮	230万人
9	川崎大師	豊川稲荷	豊川稲荷	大宮氷川神社	大宮氷川神社	大宮氷川神社	大宮氷川神社	大宰府天満宮	大宮氷川神社	205万人
10	成田山新勝寺	伊勢神宮	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	浅草寺	大宮氷川神社	大宰府天満宮	200万人

出典「若者殺しの時代」(堀井憲一郎・講談社現代新書)、2007年以降は警察庁資料

＊ 1984年以降ﾍﾞｽﾄﾃﾝ及びﾄｯﾌﾟ3の神社・仏閣は固定されている
＊ 明治神宮は1980年から30年以上首位をキープしている
＊ 1999年からはﾍﾞｽﾄ3の順位も固定されている

2 成田と鰻の関係

成田市のうなぎの歴史は古く、うなぎが一般的に食べられるようになるはるか昔から、この地域ではうなぎを食用にしていました。 成田は、利根川と印旗沼に挟まれている土地であり、利根川・印旗沼でうなぎが獲れていたという背景があります。今は獲れにくくなりましたが、昭和初期の漁業暦には、一年を通して「うなぎ」が獲れたと記してありますし、今でも利根川では天然うなぎが獲れるています。
「成田詣で」が盛んになった元禄年間以降、門前町の旅館では工夫を凝らして参詣客をもてなすようになりました。当初は利根川や印旛沼で獲れる川魚料理のひとつとしてうなぎを提供していたようですが、江戸などでうなぎの人気が高まるにつれ、成田のうなぎ料理は夏場の名物として定着していきました。
成田山の表参道は約800m位ありますが、その両側には古くからの旅館や料理店が軒を連ねており、その中の約60店でうなぎ料理がメニューに入れられています。これだけの密度でうなぎ屋さんが密集している例は全国でも珍しく、「うなぎの街」を形成しています。

石麻呂に　吾れもの申す　夏痩せに　よしといふものぞ　鰻とり食せ　大伴家持

3 成田山と市川団十郎との関係

成田屋の屋号を名乗る市川団十郎は、代々、成田山とは深くて強い縁(えにし)で結ばれています。初代市川団十郎は江戸時代の万治3年(1660)に生まれましたが、その父・堀越重蔵は下総国埴生郡幡谷村(現・成田市幡谷)出身でした。今でも成田市幡谷の東光寺の墓地には、二代目が建てた初代団十郎の碑があります。
父祖以来信仰している成田山に祈願したところ、その願いが叶って元禄元年(1688年)に男子(二代目團十郎)を授かりました。初代團十郎はこの霊験を大変喜び、元禄8年(1695年)に成田山不動明王を初演し、度々不動明王を演じました。その後も、初代団十郎は不動尊の霊験をテーマにした歌舞伎を打つようになり、親子で「兵根元曽我(つわものこんげんそが)」を演じたところ、これが大当たりをしました。こうして不動の役は市川家の十八番となり、「成田屋」の屋号もこの頃から始まったものとされています。
二代、三代も不動尊の熱心な信者で、代々不動尊が衆生を利益(りやく)する「利生記(りしょうき)」を演じて、江戸庶民の間に成田不動の話題が沸騰しました。歌舞伎でのPR、また成田山が深川永代寺で不動尊を出開帳をしたことで江戸庶民の成田山への関心は高まり、いつしか成田山詣でが江戸庶民の憧れになったのです。初めは花柳界や豪商など一部の豊かな層に限られていましたが、江戸から成田までわずか16里、3泊4日の楽しい遊山道中だったこともあって、文化文政期(1804～1829)から一般庶民の間にも成田山参詣が広がっていきました。成田山周辺には、旅籠や参詣客をもてなす食事処が立ち並び、門前町が形成されました。これが、現在の成田山表参道の原型となるのです。
時は流れて平成の今日、成田山表参道仲之町の坂にはこのご縁にあやかり、三舛の紋があしらわれた街灯が設置され、成田の街並みをあたたかに照らしています。

3 佐倉市について

佐倉市は、千葉県の北部に位置し、人口は約18万人。2009年現在、千葉県では隣接する八千代市に次いで人口第8位の市である。2004年隣町の酒々井町との合併が協議されたが、酒々井町の反対により合併協議は破談した。
市内には、旧石器時代から平安時代に至る遺跡が多く残り、発見された住居跡や当時使われた土製品・石製品・金属製品などは、各時代の文化を知る貴重な遺産となっている。
平安時代末期になると、平氏一族の臼井氏が臼井の地で繁栄し、鎌倉時代には弥富・和田の地（白井庄）に白井氏・弥富氏といった豪族がいたことも知られる。
戦国時代に千葉氏が現在酒々井町の本佐倉に本城を構え、この頃から佐倉の名が資料に多く見られるようになる。 天正18年（1590）、徳川家康が関東に入ると、その家臣三浦義次が佐倉、酒井家次が臼井、北条氏勝が弥富に領主として配置されることとなった。
その後、慶長15年に5代目領主として佐倉（本佐倉）に入った土井利勝により、鹿島山に佐倉城が築城され、以後佐倉城は江戸城の東方を固める諸大名の城となり、土井氏以後九家二十代にわたり藩主が交代することとなる。佐倉藩は、江戸幕府の老中・大老等の政務をつかさどる雄藩で、佐倉藩主20人中、老中以上の要職に8人が携わるなど、重要な藩として存在してきた。しかしながら所領は、土井利勝が14万2千石を領したのが最高で以降約11万石以下という小藩であった。中でも、幕末の藩主堀田正篤（正睦）は、幕閣では老中職を務め最後には首席老中として開国の中心的役割を担い、地元佐倉においては、佐倉順天堂、成徳書院（佐倉高等学校の前身）をつくるなど、医学、英学、蘭学などの学問に力を注ぎ、一方で子育を奨励し、領内の人口増加を図るなど優れた藩主の一人として知られている。佐倉は「西の長崎、東の佐倉」として西洋医学の街としても栄え、新町周辺の国道296号を通称蘭学通りとして、その名を残している。
明治2年、最後の藩主堀田正倫は版籍を奉還し、佐倉藩知事に任命され、明治4年7月に佐倉藩は佐倉県と改称されるが、同年11月には周辺の県との合併で印旛県となり、佐倉県の呼称は消え、印旛県も明治6年6月15日からは千葉県の一部となった。
明治のはじめ、佐倉城は佐倉連隊の兵営地となり、城門や櫓、多くの侍屋敷は壊され、兵舎などの施設が作られることとなり、以来、佐倉の町は城下町から軍都へと変貌を遂げるが、昭和20年の終戦によって、その役割を終えた。

＊順天堂大学は、佐倉順天堂を開いた佐藤泰然の養子佐藤尚中が開設したものである。

4 佐倉城址公園について

佐倉城は、戦国時代中頃の天文年間（1532～1552）に千葉氏の一族である鹿島幹胤[かしまもとたね]が鹿島台に築いたといわれる中世城郭を原型として、江戸時代初期の慶長15年（1610）に佐倉に封ぜられた土井利勝によって翌慶長16年（1611）から元和2年（1616）までの間に築造された平山城です。北に印旛沼、西と南に鹿島川・高崎川が流れる低地に西向きに突き出した、標高30m前後の台地先端に位置します。佐倉城はこうした地勢を巧みに利用し、水堀、空堀、土塁を築いて守りを固め、東につながる台地上に武家屋敷と町屋を配して、城下町としました。以後、江戸の東を守る要として、有力譜代大名が城主となり、歴代城主の多くが老中など幕府の要職に就きました。なかでも、幕末期の藩主・堀田正睦（ほった　まさよし）は、日本を開国に導いた開明的な老中として有名です。
明治維新後には城址に陸軍歩兵第二連隊（後に第五十七連隊＝通称・佐倉連隊）が置かれたために櫓や門などはすべて取り壊され、昭和20年の終戦まで軍隊が置かれていました。
公園の本格的な整備は昭和54年度から始まり、水堀の復元・本丸跡・出丸跡・三逕亭(茶室)などが整備されました。また、昭和58年、明治百年記念事業として、公園隣接地に国立歴史民俗博物館が開館し、現在に至ります。

5 初詣会参加者

天野 静一郎	五百川 幸子	迫 弘子	寺中 守雄	古田 忠雄
高川 博	荒井 昭	白石 崇	豊田 亀次郎	山﨑 繁
辻 邦昭	伊倉 禧枝	関谷 一郎	長嶋 良一	渡辺 秀夫
恒成 憲一	尾利出 収	副島 久美子	西村 徹	和田 照美
鈴木 美千代	萱場 宗久	田中 春秋	服部 昭	宇賀神 英義

6 民族博物館から京成佐倉（JR佐倉）方面へのバス時刻
＊博物館から京成佐倉駅までは歩いて20分程度かかります。15時台（03分・16分）16時台（03分・37分）に各2本博物館前からバスに乗車できます。なお、博物館入口まで歩けば、路線バスが頻繁に通っています。